

令和 7 年度病床機能転換事業計画報告書

1 病院名：社会医療法人東明会 原田病院

2 所在地：埼玉県入間市豊岡 1-13-3

3 病床機能転換概要

転換前病床 機能区分	転換病床数（床）			整備事業 内容	整備事業 開始（着工） 予定年月	整備事業 完了（竣工） 予定年月
	地域包括 ケア	回復期リハ	地域包括 医療			
急性期			58	改修	令和 7 年 9 月 下旬	令和 7 年 11 月

※転換前病床機能区分は「急性期」「慢性期」等該当するものを記載。

※整備事業内容は「新築」「増改築」「改修」「設備整備」の該当するものを記載。

4 提供する医療の内容

【転換前】 B 棟 3 病棟（58 床）：一般急性期病棟
【転換後】 B 棟 3 病棟（58 床）：地域包括医療病棟 へ転換

○地域医療を支えていくために圏域で果たす役割、機能

地域一般病院として、二次救急医療と回復期の両方を提供する

○新たに担う役割

高齢化に伴う医療提供を「治す」だけでなく、「癒す」「支える」ことに拡げていき、急性期機能から回復期機能を強化し、在宅復帰や介護施設にスムーズに移行する医療を提供する

○将来の方向性

地域包括ケアシステムの流れの中で、救急受入直後から回復期機能を提供し、回復期リハビリテーション病棟へのスムーズな転棟、リハビリテーションによる身体機能の向上及び家族支援を行うことで、入院が必要な患者をより多く受け入れる

○現在の体制で対応できていない患者と今後の見込み 等

高齢者救急の患者は他の患者に比べ、平均在院日数が増加する。これら高齢患者の入院期間が長期化すると、医原性廃用症候群が加わり、回復期病棟への転棟や早期の在宅復

帰・介護施設への移行に時間を要することが課題である。入院直後からリハビリ・栄養管理・口腔機能の改善を行い、回復期病棟へのスムーズな転棟をすることで早期の在宅復帰や介護施設への退院支援までの幅広い医療サービスを提供することを可能とする

5 転換後の見込み

届出予定基本診療料施設基準 地域包括医療病棟入院料	算定開始予定年月 令和7年12月
患者の受入見込み 総入院数 1,341 名 内訳) 自宅から年間 761 名 (56.7%) 埼玉石心会病院から年間 90 名 (6.7%) 豊岡整形外科病院から年間 69 名 (5.1%) 防衛医科大学校病院から年間 35 名 (2.6%) 入間川病院から年間 14 名 (1.0%) 特別養護老人ホーム・老人保健施設から 年間 120 名 (8.9%) 有料老人ホームから年間 128 名 (9.5%)	
【転換前】 救急搬送 669 名 (49.9%) 紹介 450 名 (33.6%) 外来 222 名 (16.6%)	【転換後】 救急搬送 718 名 (49.9%) 紹介 483 名 (33.6%) 外来 239 名 (16.6%)
医療（介護）連携見込み ○紹介元：埼玉石心会病院、防衛医科大学校病院、埼玉医大国際医療センター、所沢美原総合病院、西埼玉中央病院、豊岡整形外科病院、豊岡第一病院、入間川病院、並木病院、わかさクリニック、けやきクリニック、杏クリニック、杏樹苑、鍵山苑、サニーライフ狭山、イリーゼ武蔵藤沢、ベストライフ武蔵藤沢 ○紹介先：埼玉石心会病院、防衛医科大学校病院、埼玉医科大学病院、埼玉医科大学国際医療センター、所沢美原総合病院、西埼玉中央病院、豊岡整形外科病院、豊岡第一病院、入間川病院、狭山尚寿会病院、所沢ロイヤル病院、並木病院、明生リハビリテーション病院、飯能靖和病院、入間ハート病院、さやま総合クリニック、入間けやきクリニック、わかさクリニック、杏クリニック、たにかわ眼科クリニック、老健アヴニール、鍵山苑、杏樹苑、飯能リハビリ館、ケアセンター楠苑	
【転換前】 ○紹介元：上記参照 ○紹介先：上記参照	【転換後】 ○紹介元：左記同様 ○紹介先：左記同様

※届出予定基本診療料施設基準は「地域包括ケア病棟入院料1」「地域包括ケア入院医療管理料1」等該当するものを記載。

6 医療従事者

職種	転換前の人員（人）			転換後の予定人員（人）		
	常勤	非常勤		常勤	非常勤	
		実人数	常勤換算		実人数	常勤換算
医 師	7	0	0	9	0	0
看護師	25	8	5.15	24	8	5.15
准看護師	5	2	1.62	5	2	1.62
看護補助者	16	8	4.62	14	8	4.62
理学療法士	14	0	0	17	0	0
作業療法士	2	1	0.14	6	0	0
言語聴覚士	3	0	0	3	0	0
放射線技師	2	0	0	2	0	0
臨床検査技師	1	1	0.58	1	1	0.58
薬剤師	4	4	4	4	4	4
事 務	2	0	0	2	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
計	83	24	23.11	89	23	22.97

確保状況・確保策、確保スケジュール

（※変動が生じる予定の人員について、確保策等を具体的に記載してください。）

【医師】5月1日 内科1名、7月1日 外科1名、10月1日 整形外科1名

【看護職】

看護師：5月20日1名、7月1名、9月1名、10月2名、11月2名

看護補助者：6月1日2名

【リハビリ職】

理学療法士：9月1名、10月2名

作業療法士：9月1名、10月1名

言語聴覚士：6月1日1名

【その他】

7 主な病院内施設・設備

転換前	転換後
・ 10 床室 1 室 (急性期一般入院料 4) ・ 8 床室 1 室 (急性期一般入院料 4) ・ 7 床室 1 室 (急性期一般入院料 4) ・ 6 床室 4 室 (急性期一般入院料 4) ・ 2 床室 2 室 (急性期一般入院料 4) ・ 1 床室 5 室 (急性期一般入院料 4)	・ 10 床室 1 室 (地域包括医療病棟入院料) ・ 8 床室 1 室 (地域包括医療病棟入院料) ・ 7 床室 1 室 (地域包括医療病棟入院料) ・ 6 床室 4 室 (地域包括医療病棟入院料) ・ 2 床室 2 室 (地域包括医療病棟入院料) ・ 1 床室 5 室 (地域包括医療病棟入院料)
・ スタッフステーション ・ 休憩室 ・ 病室建具 ・ WC	・ スタッフステーション ・ カンファレンスルーム ・ 休憩室 ・ 病室建具 ・ WC ※壁紙・床・空調・設備の更新あり

(※増減が生じる施設・設備は、アンダーライン等でわかるよう記載してください。)

8 医療（介護）連携における課題、問題点

○市町村・ケアマネジャーとの連携状況、待機患者の状況、在宅への移行はスムーズに行われているか 等

高齢者が可能な限り住み慣れた地域で生活を継続することができるようなサービス提供を目指す医療介護連携の当院の課題は、①「必ずしもご本人や家族の希望通りにならない場合もあること」、②介護人材の不足、③医療職と介護職の知識や技術などの違い、④高齢者施設が少ないことなどが挙げられます。

在宅へスムーズに移行するためには、一医療機関だけでは改善できないことも多いため、近隣施設との連携や交流の上に個別事例ごとに取り組みを積み重ねていくことがスムーズな移行へと繋がると考えています。

病床機能転換 病床機能報告調書（現状と病床機能転換後）

施設名	原田病院
-----	------

1 現状（令和7年6月1日時点）

病床機能区分	病棟名	病床種別	入院基本料・特定入院料	病床数	備考
高度急性期					
急性期	B2病棟	一般	急性期一般4	42	
	B3病棟	一般	急性期一般4	58	
回復期	B4病棟	療養	回復期リハ1	31	
	B5病棟	一般	回復期リハ1	35	
	A4病棟	療養	回復期リハ5	23	
慢性期					
その他 （休棟等）					
計				189	

2 病床機能転換（整備事業実施）後

病床機能区分	病棟名	病床種別	入院基本料・特定入院料	病床数	備考
高度急性期					
急性期	B2病棟	一般	地域包括医療病棟	42	
回復期	B3病棟	一般	地域包括医療病棟	58	
	B4病棟	療養	回復期リハ1	31	
	B5病棟	一般	回復期リハ1	35	
	A4病棟	療養	回復期リハ3	23	
慢性期					
その他 （休棟等）					
計				189	

3 救急告示病院告示・在宅療養（後方）支援病院届出状況

項目	有・無	無の場合取得予定等
救急告示病院の告示の有無	有	
在宅療養（後方）支援病院の届出の有無	有	

4 特記事項

--